

# 印象派の影響を受けた洋画家 (1890~1973)

おおくぼ  
大久保

さくじろう  
作次郎



『大久保作次郎画集』より

## 洋画との出会い

大久保作次郎は、明治23年(1890)、泉北郡山滝村(現在の岸和田市内畑町)に生まれ、大阪市で育ちました。旧制岸和田中学校(現在の岸和田高等学校)に入学しますが、3年のとき、母が亡くなったため、大阪市に戻り、桃山中学校に入学しました。

中学時代に大阪で第5回\*内国勸業大博覧会が開かれ、その時に初めて洋画を見て、非常に強い印象を受けました。

\*ないこくかんぎょうだいはくらんかい

## 東京美術学校で学ぶ

明治40年(1907)に文展が開かれ、そこで洋画は日本画とようやく肩を並べ、そしてめざましい興隆期を迎えます。この洋画興隆期に、作次郎は明治43年(1910)東京美術学校に入学し、\*黒田清輝、\*藤島武二らに師事しました。

在学時代から印象派風な制作を行い、大正5年(1916)に『庭の木蔭』、翌6年『三月の日』、続く7年に『とげ』と3年連続して文展で特選を得、翌年からは審査を受けなくても推薦してもらえるようになりました。

大正11年(1922)、フランスに留学し、ボッチェリーに傾倒し、ルーブル美術館で3年半をかけ模写しました。この時期、パリではマティス、ピカソと多くの優れた画家たちが活躍していました。

現地の画家の情勢に触れ、しばらくは作品に変化を表しますが、表現に深みを加えて、自己本来の作風に戻り、昭和48年(1973)83歳で亡くなるまで、ひたむきに画業に励みました。



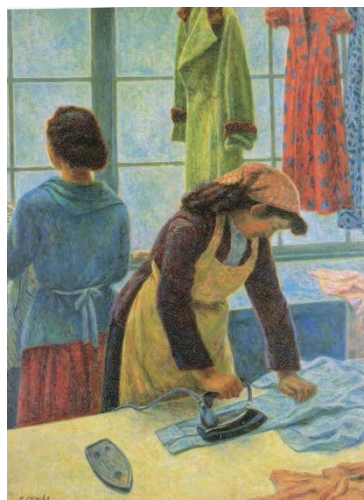
### 作次郎の業績

- 1955年 「新世紀美術協会」を結成
- 1958年 日展評議員
- 1959年 『市場の魚店』で日本芸術院賞を受賞
- 1963年 日本芸術院会員就任



『漁婦』

『ルパシユーズ』



この2作品は、岸和田市に寄贈してもらったよ!

